

2020年1月20日

学校法人岩手医科大学  
公立はこだて未来大学  
株式会社 電通東日本  
東日本電信電話株式会社 岩手支店

## 岩手医科大学附属病院における「移行期医療支援ツール開発」 実証実験への協力について

東日本電信電話株式会社 岩手支店(支店長：星 伸寿、以下「NTT東日本」)は、学校法人岩手医科大学(理事長：小川 彰)・公立はこだて未来大学(理事長・学長：片桐 恭弘)・株式会社電通東日本(代表者：寺尾 芳紀)と小児病棟内において、入院小児患者向け支援アプリ<sup>※1</sup>を活用し、移行期医療<sup>※2</sup>における「患者」中心の医療の実現及び患者の不安軽減、バイタルデータや診療データとの統合や有効性を分析・検証する実証実験を開始します。

- ※1 入院小児患者向け支援アプリ=タブレットPC やスマートフォンにキャラクターを表示し、治療や検査を受ける小児患者に対し認知発達に応じた病気入院、手術、検査などの処置の説明機能、ビーコンや AR を利用して処置室に行くまでの応援や探検(宝探し)機能など、小児患者が楽しめるアプリケーション。
- ※2 移行期医療=小児期医療から成人期医療への円滑な橋渡しを行う移行期間の医療(transitional care)のこと。  
医学の進歩により小児慢性疾患患者の多くが成人期に達し、その多くは合併症や遺残症を伴い、継続する医療が重要とされています。

### 記

#### 1. 背景・目的

岩手医科大学附属病院は 2019 年 9 月に盛岡市から矢巾町へ移転し、「患者さんにやさしい病院」をコンセプトに掲げ、病気と共に前向きに、長く生きるための医療 ICT の活用を目指しています。病院移転を期に小児・周産期医療の充実、救急医療体制の強化を図るなど、東北最大規模の敷地面積にベット数 1,000 床を誇る県内唯一の特定機能病院として高度医療を提供しています。この度、同院では「移行期医療」を支える新たなツールとして入院小児患者向け支援アプリを試験導入し、実証実験を実施することとなりました。

NTT東日本は、院内 Wi-Fi 環境整備を行うと共に、Wi-Fi を介して得られる生活行動データの収集、また、バイタルデータや診療データとの組み合わせ/分析結果を提供など、同院の実証実験に協力することで地域医療の一層の充実・発展に寄与できるものと考えています。

#### 2. 実証実験概要

##### (1) 期間(予定)

効果検証・実施期間

2020年1月27日(月)～2020年3月31日(火)

##### (2) 場所

岩手医科大学附属病院 小児科病棟内(岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番1号)

##### (3) 内容

入院小児患者向け支援アプリを活用した移行期医療支援ツール開発

### 3. 役割

<学校法人岩手医科大学>

実証実験の実施場所の選定、実証実験結果の提供等

<公立はこだて未来大学>

小児患者向け支援アプリの提供、タブレット PC やスマートフォンと Wi-Fi、ビーコン、AR 等の IT 機器と組み合わせ、入院病棟での効果検証等

<株式会社 電通東日本>

小児病棟支援プロジェクトのクリエイティブ提供等

<NTT東日本 岩手支店>

Wi-Fi 環境整備、生活行動データの収集、実証実験結果の取りまとめ等

### 4. その他

入院小児患者向け支援アプリを活用した移行期医療支援ツールのイメージは下図のとおり

以上

#### ■「移行期医療支援ツール開発」のイメージ

